

ネイチャースキー教室の参加者について — 野外活動経験と参加動機を中心に —

○野口 和行（慶應義塾大学）

桃井 泰彦（ネイチャースキー研究所）

キーワード：ネイチャースキー、野外活動経験、参加動機

1. はじめに

ネイチャースキーは、1994年に桃井によって提唱された新しい冬の自然活動である。ネイチャースキーは歩きやすいスキーで気ままにのんびりと雪の森を歩いて自然を楽しむという活動である。従って、タイムや距離、技術を競うものではなく、雪の森を満喫しながら自然を感じ、感動するという人間の情動の部分に訴えかけることによって環境に対する具体的な行動の変化を生み出していくということを目的としている。

ネイチャースキーで使用する用具は、雪の森の中を自由に歩き回るために新たに開発されたものである。従来のクロスカンリースキーよりも幅広で、身長より10～20cm短いスキー板、軽くて歩きやすい軽登山靴のような靴、楽にかかとの上がる締具を使用するため、森の中でも取り回しが良く、楽に歩くことができるように作られている。

日本では、高度経済成長による生活の急速な変化による文明病の問題や育ち方の変化による様々な弊害が問題となっている。これは生活が急速に「自然離れ」を起こしたために本来自然と同じメカニズムで動いている人間の身体が歪みを起こしているためと考えられる。また、近年大きな問題となっている環境破壊の観点からも、今後我々がライフスタイルの見直しをする必要があるといわれている。そこで新しい行動を起こすための動機付けとして、ネイチャースキーの目的である自然を感じ、感動するという人間の情動の部分に訴えかけていくことは大変重要なことであると考えられる。

そこで、本研究はネイチャースキー教室参加者を対象に現在までの野外活動経験、参加動機、受講後の感想に関する質問紙調査を行い参加者の特性や参加動機を明らかにすることによって、ネイチャースキー普及のためのフィードバック情報を得ることを目的とする。

2. 研究の方法

本研究では、1996年2月から5月にかけて実施された（財）森林文化協会、国立妙高少年自然の家、及びネイチャースキー研究所で主催されたネイチャースキー教室の参加者252名を対象に教室終了後直接配布による質問紙調査を実施した。

質問内容は、参加者の基本的属性（5項目）、他の野外活動経験（19項目）、自由記述による参加動機、自由記述による受講後の感想であった。

参加者の基本的属性及び野外活動経験については単純集計及びクロス集計を行った。自由記述による参加動機及び受講後の感想については内容による整理・分類を試みた。

3. 結果の概要

1) 参加者の属性について

参加者の性別は、男性91名（36.1%）、女性161名（63.9%）であった。年齢別に見ると、50代女性52名（20.6%）、60代女性35名（13.9%）、40代女性32名（12.7%）、60代男性32名（12.7%）となり、女性、特に40代以上の中高年の女性の参加が多くなっている。

参加者の職業別に見ると、会社員65名（25.8%）、自営業24名（9.5%）、教員25名（10.0%）、主婦69名（27.4%）、学生（7.5%）、定年退職32名（12.7%）であった。

参加者の住所別に見ると上位5位は東京都111名（44.0%）、神奈川県46名（18.3%）、埼玉県22名（8.7%）、千葉県22名（8.7%）、新潟県13名（5.2%）であった。

以上のことから、参加者は、関東在住の子育てが終わった中高年の女性、定年後の男性が中心となっていることが見受けられる。

2) 参加者の野外活動経験について

参加者が今までに行ったことのある他の野外活動について見ると、半数以上が経験したことのある種目として、ハイキング208名（82.5%）、日帰り登山200名（79.4%）、ゲレンデスキー189名（75.0%）、小屋泊登山161名（63.9%）、キャンプ（オートキャンプを含む）135名（53.6%）があった。経験した回数別に見ると、経験回数1回～5回の種目としては、小屋泊登山92名（36.1%）、ハイキング90名（35.7%）、ゲレンデスキー88名（35.0%）があり、経験回数11回以上の種目としては、ハイキング84名（33.3%）ゲレンデスキー77名（30.6%）、日帰り登山76名（30.2%）があった。

半数以上が経験したことのあるハイキング、日帰り登山、ゲレンデスキー、小屋泊登山について年齢別にクロス集計を行うと、40代から60代では、ハイキング、日帰り登山、小屋泊登山において、各年代の70%以上が経験していた。キャンプでは20代及び30代の70%以上が、ゲレンデスキーでは20代及び30代の90%以上が経験していた。

3) 参加動機について

参加動機に関する自由記述から369項目を抽出し、内容に従って整理・分類した。1番多かった項目は自然に関する項目（118）であった。さらに細かく分類すると、「木や草の名、アニマルトラッキングなどを知るために」等の自然観察に関する項目（33）、「リフトから見る森や林に入っていきたくて」等の森に関する項目（34）、「身近に自然と接したい」等の自然とのふれあいに関する項目（30）、「雪景色を見てみたかった」等の雪に関する項目（21）があった。

次に多かった項目はスキーに関する項目（76）であった。さらに細かく分類すると、「ゲレンデスキーにあきたらないものを持っていた」等のアルペンスキーへの疑問に関する項目（18）、「普通のスキーよりはきやすいかと思って」等の用具への興味に関する項目（13）「クロスカントリースキーとの違いを体験したかった」等のクロスカントリー・テレマークスキーとの比較に関する項目（11）、「クロスカントリースキーに以前から興味があったので」等の歩くスキーへの興味に関する項目（10）等があった。

以下、「普段行けないような場所に入っていくことができる」等の歩くことへの興味に関する項目（63）、「自分のペースでできる」等のゆとり、自由に関する項目（32）、「普段なかなかできないことなので」等の新たな経験に関する項目（22）、「運動不足の解消」等の運動・健康に関する項目（17）、「年齢に関係なく楽しめる」等の年齢に関する項目（11）、「新しい自然の楽しみ方を紹介したいと思ったので」等の新しいプログラムとしての期待に関する項目（10）等があった。

また、受講後の感想としては、「ゆっくりと自然にとけ込めること」、「今まで見てごしていた小さなものにまで目を向けることができた」、「人間も自然の一部だということを実感した」等があった。